

八ヶ岳 赤岳主稜

斎藤(健)

【日時】2008年12月7日(日)

【メンバー】L藤岡、斎藤(健)

■天気：晴れ

昨日と打って変わって、朝から抜けるような青空。

小川さんは、暗いうちに一足先の下山し、今日は、私と藤岡さんの2人パーティーだ。

以前、一度、赤岳主稜を登ったことのある藤岡さんの記憶を頼りに、赤岳主稜の基部に到着。丁度、先行パーティーが取り付き始めたところだった。

我々も準備を始める。藤岡さんのロープと私のロープは、全く同じマムートのオレンジのロープ。区別がつかなくて、ややこしい。事前に、ロープの色ぐらい、打ち合わせしておくんだった。

ロープを結んで先行パーティーを待っていると、さらに後続のパーティーが到着。こちらは、群馬の太田山岳会。本日、5パー

ティーで八ヶ岳集中登山中とのこと。基部に着く前に、「ショルダーリッジに行きます。」という一行にも会ったが、同じ仲間ようだ。夏の間は、谷川の岩壁を登り込み、冬も谷川の難しいルートに行くとのこと。やっぱり、冬に難しい壁に登ろうと思うと、





夏からの継続的なトレーニングしないとなぁと思った。

いよいよ、藤岡さんの順番が回ってきて登り始める。最初は、チムニー状のところから。ビレイ支点は、ペツルのハンガーボルトがしっかり打っており、普段の、フリークライミングのときと同じ安心感がある。

程なく、藤岡さんは、上まで到着したようだが、「ザイルアップ」のコール、笛を吹いても、ザイルが上がっていかないし、応答もない。11月の瑞牆山大ヤスリ岩のときの、栗原さんが吹いた、狭まった岩の向こうからの笛の音が全く届かなかった経験から、藤岡さんの登っていった方向ではなく、阿弥陀岳の方向に笛、コールをし、山のコダマを利用して伝達してみる。今度は、反応があり、ロープが上がっていく。山全体を利用して登っている感覚が楽しい。

続いて、私が登り始める。ホールド、スタンスともにガバ系のしっかりしたものが沢山あり、難しさは、登山道を歩いているのと同じようなもので、気持ちよく登っていくことができる。道幅もそれなりに広く、これなら、鉄格子の階段をアイゼンを引っ掛けないように歩いていくよりも、こっちのルートの方が、よっぽど気楽だと思えるほど。

2ピッチ目の基部にも、やはりペツルのハンガーボルトがしっかり打っており、このルートの整備はバッチリ。そんなこんなで、どんどん先のピッチへ。トップがロープを手繰り上げるスピードよりも、セカンドが登るスピードのほうが明らかに速い。

3ピッチ目ぐらいからは、傾斜も緩く雪が沢山ついているため、岩登りというより、雪山歩きに近い。雪の浅いところは、雪を払いながら凍った岩にピックを刺し、ある程度の深さの雪の部分にはシャフトを刺しながら登っていく。ピックを使う場面と、シャフトを刺す場面は、半々ぐらい。

今回、藤岡さんから借りた雪稜用のバイルは、50cmのストレートシャフト。先週、春日ルンゼで練習したのと、全く同じ形だ。高橋さんから教えてもらった、ピックを下に引いて効かせる方法、体をバイルの真下に持ってくるポジションを思い出しながら登る。教わって、次の週にその実践なので、感覚や記憶も確かだ。すぐに役立つ実践的なことを教えてくれた、高橋さんには、感謝々の気持ちで登り続ける。

このルート、ビレイ中も、雲ひとつない青空のもと、諏訪湖、中央アルプス、北アルプスと、遥か先までいろいろなものが見渡せ気持ちがよいので、飽きることも無い。おまけに、今日は、無風で寒さを感じない。

また、赤岳主稜は、ルート上に適度な岩角が沢山あり、長いテープスリングが大活躍。大きな岩にテープスリングがしっかり決まれば、ボルトなどよりもよっぽど安心だ。

途中、藤岡さんがルートをはずし、15mほどトラバースしすぎてしまう。私のほうは、この部分、セカンドで登っていたので余裕があり、本来のルートの方へ続くボルトを何本か発見し、ルートをはずしていることを伝える。藤岡さんのほうに行くためには、細



く切れたレッジをトラバースしていく必要があり確実ではないので、私は、「確実に登れそうなリッジ上の正規ルートを行います」と伝える。岩の上から、カラビナのおもりをつけたロープを遠投してもらい、ちょっと変則的だったけど、トップとセカンドの交代を行った。

最後は、赤岳頂上小屋に飛び出てなんとも爽快なルートであった。一般の登山道とは異なり、人の手がほとんど加わっていないルートを、山の形状に合わせて登っていくスタイル。なんとも、いいものである。

- 【行程】 行者小屋BC(6:30)～赤岳主稜基部(7:30)～赤岳頂上小屋(12:15/13:15)
～地藏尾根経由、行者小屋BC(14:00/15:00)～美濃戸山荘P(16:40)
【地形図】 八ヶ岳西部